

♪ピチピチ

チャプチャプ

蘭＊蘭＊蘭

トク

梅雨前の愚図つき気味の頃からその真最中の時期に咲く花を求めて「富士御坂山塊三ツ峠山」「足尾庚申山」「朝日連峰大朝日岳」へ登ってきた。

雨の中だからこそなのか、初めて観る花も含めて色々な花を観ることが出来た。参加戴いた方に感謝致します。

## ◆三ツ峠山

カモメランという花が三ツ峠山にあるとガイドブックに記されている。どういう花な

のかネットを見てみると、鴫の斑点に由来して鴫蘭と名付けられたようである。隣の黒岳にも咲いているらしい。



カトレア、胡蝶蘭など西洋蘭は豪華絢爛で人気があるが、日本蘭も西洋蘭に比べれば地味ではあるが人気がある。それ故に盗掘・乱獲などにより



自生地も壊滅的な種が殆どで、人が近付けない場所くらいしか野生種はない。特にアツモリソウは一見グロテスクにも見えるが人気があり、自生する場所はガイドブックには礼文島を除き見付けられなかった。楡形山、入笠山、釜無山などにも自生他はありそうだが登山道周辺では見付けることは難しいようである。が、三ツ峠山でしつかり盗掘防止の檻の中で咲いている写真を見つけた。

埼玉と関係する鎌倉時代初期の源氏方の武将「熊谷直実」の名を付けたクマガイソウ（熊谷草）が浦和の民家で保護されている。当時の武将は、弓矢を防ぐために風船状の「母衣（ホロ）」を背負っていたが、花卉の下唇にあたる部分がその母衣に似ているのでクマガイソウと名付けられた。同じように母衣のある同種の蘭が平敦盛の名にあずかりアツモリソウ（敦盛草）と名付けられている。源平の争いの如く一緒に咲くことはない。

アツモリソウを田中澄江氏の「花の百名山」（改訂版やNHK放映版もある）において地蔵岳（赤城山）で取り上げており（場所は盗掘を怖れ書かれていない!?）、同じく花の百名山の三ツ峠山はフジアザ

ミ(富士薊)、レンリソウが書かれていたようである。

そのカモメラン・アツモリソウなどを観に三ツ峠山へ行く。

登山道の斜面は柵により二重に封鎖され、その柵内に赤い花が見える。カメラの望遠レンズで撮り拡大するとアツモリソウらしいが、近付くことも双眼鏡もなくそれ以上の確認は出来なかった。

四季楽園から木無山へ向かう。頂上ではヤマツツジ(山躑躅)の咲く横で犬を連れた自衛隊員が訓練をしており装備の点検をしている。富士山も他の山も展望は全くない。目の前を柵で区切られ草原状になっている横のベンチで昼食とする。その草原にはあちこちに檻が設置されてい

る。もしやと思い丹念に探すとアツモリソウが5、6株だろうか、咲いている。参加者それぞれ写真撮影などで昼食どころではない。



ゆつくりの私たちと付かず離れずだった15名程度の団体も登って来た。この団体は登山より自然観察がメインの団体のようで、蘭の自生地の情報を見せて戴いた。その後を追いつ開運山から御巣鷹山に向かってと団体さんは観察したり写真を撮ったりしている。思っていた以上に小さな花のカモメランが登山道脇に咲いて

いる。林の中の暗い方には咲いていないようだ。日差しや風通し、湿度など微妙に異なるからだろうか。



白花の群落も教えて貰う。

更に進むとまたアツモリソウが手厚く保護されていた。



【山行日】H 28年6月15日  
【メンバー】S々木雅、TK、  
他2名